

NAKED EYES.

BY KOUICHIRO GOSHO

河本英典

HOT-BLOOD

綾羽 株 取締役社長・参議院議員●プロフィール 1948年滋賀県高島郡出身
72年慶応義塾大学商学部卒業、綾羽株入社。伊藤忠商事ニューヨーク勤務を経て、83年綾羽株取締役社長に就任。92年参議院議員に当選。現在は20以上の役職を兼務する。綾羽の創業者は亡父の河本嘉久蔵氏。

仕事も政治も、根本は郷土愛。 地方の時代を先取りした男



「京都だけでは話にならん」とLAKE SIDE EDITIONのページを始めてもう半年少々。滋賀の何よりの宝は、琵琶湖とそれを取り囲む山々が織りなす自然の美しさなんだと痛感する今日この頃である。さて、本日お目にかかるのは若手経営者としては滋賀県のトップランナー、参議院議員一年生として中央政界でも活躍する河本英典氏。

日本をダメにするのは政治への無関心!!

御所 社長とお呼びしているのか、先生とお呼びするべきなのか迷っているんですが…。

河本 まだ一年生議員です、短時間で政治論をぶつても仕方ないですよ。議員もしてる、ということでもいいですよ。

御所 河本さんは率直なお人柄ですが、若者にとって政治家というのは、どうも別世界の人間ほどかけ離れたイメージがあるみたいですね。

河本 思ってみるだけでも煩わしいんでしょう(笑)。若い人が投票にいかないのは、当たり前で、切実さがありませんよ。遊びに行くほうが大事でしょう。逆にいうと、日本の国が何とかなうかといった証拠ですよ。危機感をもっていたら、もっと関心をも

つだらうね。

御所 たとえミハーでもええから、もうちょっと現在の政治の構造をわかってもらう努力、わからせるための工夫が必要な気がするんですけど…。

河本 テレビに出て喋ったり、いろんな方法がありますけど、受け手側がしっかりしないと、本質から外れて「変わったこと言うたら勝ち」になってしまうですよ。もっと五感を発達させて、映像から本質を見抜けるように進化しないとダメですね。

御所 国が今どっちの方向を向いているのか、というビジョンだけでもわかればね。

河本 いちばん大事なのは、努力する人間が報われる社会ということですね。

国を憂えるような大層な話はしたくないし、論じだすと一冊の本が書けるぐらいですけど、今の日本はネジが緩み放しですね。アメリカがいいとは言いませんが、かれらは星条旗のもとに自由・平等・正義・博愛という理想をもっていますね。ところが日本のムラ社会で

よどみにいると、大きくなれないゾ。

御所 事業のほうの話でいうと、アヤハという会社はリアルタイムの変化の兆しを機敏に見とって、次の時代に即応してきた会社ですよ。

河本 かつよく言えばそうですが、結果オライという部分はありますね。

御所 最初は戦後すぐに父上が山城織物という会社を京都でスタートされた。

河本 モノ不足の時代でしたからね。紡績工場をつくり、52年には綾羽紡績という名にしています。60年代にはタイヤコードを製造しはじめ、工業繊維のメーカーに。その後はゴル

は、顔見知りの人間のあいだでは突出せず、波風をたてるところ。知った顔のいない場所では好き勝手のし放題。政治をハカ力にしてると、政治に足をすくわれるというのは言えるんではないかと思えますよ。

フ場の経営や自動車教習所、DIYのホームセンターアヤハディオの出店など、多角経営でやっています。

御所 一般のニーズを拾い上げ、それが生活を支えてくれるものとして人々に支持されたあたり、経営者としての方向性と政治家としての理念を結び付けたいかなるんですが…。

河本 それは関係ないですよ。もちろん原点は考え方ですから重なる部分はあるでしょうが、政治と経営をいっしょにすると話がややこしい。

御所 わかりました。それじゃ「近江商人」の話にしましょう。

河本 いや、その言葉もイメージが悪いでしょ(笑)。第一、滋賀は近江商人を輩出した所やというだけで、あくまでも外へ出て成功した人が評価されてるわけですからね。

御所 先だって「商人フォーラム」でも「琵琶湖の中で育った鮎は、よそへ放流した鮎より小さい」という話が紹介されましたね。

河本 滋賀県内は酸欠状態やということですね。優秀な人材がみな外へ出てしまうのか、もともと優れた素材でも県内でくすぶっていると小さくなってしまっただけか…。

御所 じゃあ、どうすべきなんでしょう。河本 攪拌してやることでしょうか。安定はいずれ沈殿に向かう。激みにはまってる、身のまわりも何も「もう、ええやん」ということになってしまう(笑)。滋賀にかぎらず日本人というのは、外からおどかされて一旦つぶれてしまわんと、なにも新しいものをよつづくらん傾向があるでしょ。町の新陳代謝を活発にしてやって、自然な「自浄作用」に期待するしかないですね。

I♥NYの精神で、町を愛そうよ

御所 地域を活性化していくためには、町としての役割分担や棲み分けなども必要になってくるんじゃないでしょうか。

河本 たとえば大阪と神戸が金を稼いで、京都は奥座敷、滋賀は米作りをしてこればいい、みたいな地域論がありますが、これには腹が立ちませんか? ○○県人というくりかたにしても、親父の出身地にしぼられてるだけで、日常的な意味はない。

御所 もちろん一日の大半をここで過ごしているかのほうが切実ですね。

河本 県内のことだけにこだわる必要はないと思います。県庁所在地も京都と天津でくついでますし、もつと広域的に考えたほうがよいのやないかと思えます。

御所 京都から湖岸に遊びに行く若者は増えていますね。

河本 観光にきてもらうのもいいが、まずは自分の町に誇りをもって住める場所にするのが重要でしょう。地方に住んでも一流の仕事ができればよいのです。ただ、滋賀には刺激が足りない。やはり都市という人は人と人が切磋琢磨する場所であって、いろんな情報や刺激に接することこそが都市の魅力ですからね。

御所 滋賀県はいい素材をいっぱいもってるわりに注目されないのが、残念な気がするんです。国民共有の財産として分かちあえるすばらしい自然ですとか。

河本 ところが、その自然の美しさに県内の

人は気付いてないんですよ。

御所 いつも囲まれているから、取り立てて意識しない。その点は京都もいっしょかもしれませんね。

河本 海外旅行から帰ると、日本の美しさにはっとするのと同じだね。よそのいいものもたくさん見て、目を肥やさないといけません。

御所 目利きになるためには外へ出てもらう…と。滋賀県を会社に見立てたとすれば、新商品開発についてはどう思われますか?

河本 町のC1としての村おこしや打ち上げ花火みたいなお祭もいけれど、単なるキャンペーンじゃ困る。土地柄が器用じゃないですから、コソコソと手堅く建設的なことを考えないといかん。やはり基本は自分の住んでるところを大事にすることでしょうね。「I♥NY」ならぬ「アイしが」の精神で。



(御所氏へのメッセージ)

御所光一郎 「クラフフェイス」プロデューサー。河本英典氏より

「今日はぼくばかりが喋ってしまいました。クラフフェイスにもっと活躍してもらいたいですね。地元タウン誌だからできる、切り口の工夫やアプローチ方法があるんじゃないですか。」